

古典文法・助動詞②「つ・ぬ」【解答】

【練習1】

1 (口語訳) 任せた

(文法的説明) 完了の助動詞「つ」の終止形

2 (訳) 逃がし(てしまつ)た

(説) 完了の助動詞「つ」の連体形

3 (訳) 下ろしてしまえ

(説) 完了の助動詞「つ」の命令形

4 (訳) 開いた

(説) 完了の助動詞「ぬ」の終止形

5 (訳) 満ちた

(説) 完了の助動詞「ぬ」の終止形

6 (訳) 終わったならば

(説) 完了の助動詞「ぬ」の未然形

7 (訳) 暮れたので

(説) 完了の助動詞「ぬ」の已然形

8 (訳) なってしまつて下さい・なった

(説) 完了の助動詞「ぬ」の已然形・「完了の助動詞「ぬ」の終止形

9 (訳) お思ひになつてしまつて下さい

(説) 完了の助動詞「ぬ」の命令形

10 (訳) 髪もきつととても長くなるだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形

推量の助動詞「む」とセットで「ぬ」が強意になる例

11 (訳) きつと良くないだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形

「む」とセットで「ぬ」が強意になる例

12 (訳) きつと読みましょう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形

「む」とセットで「ぬ」が強意になる例

13 (訳) きつと成し遂げよう

(説) 強意の助動詞「つ」の未然形
推量の助動詞「む」とセットで「つ」が強意になる例

14 (訳) きつと見逃してくれるだろう

(説) 強意の助動詞「つ」の未然形
「む」とセットで「つ」が強意になる例

15 (訳) きつと捕まえるだろう

(説) 強意の助動詞「つ」の未然形
「む」とセットで「つ」が強意になる例

16 (訳) きつと吹くだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の終止形
推量の助動詞「べし」とセットで「ぬ」が強意になる例

17 (訳) きつと負けるだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の終止形
「べし」とセットで「ぬ」が強意になる例

18 (訳) きつと幼稚になるのだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の終止形
「べし」とセットで「ぬ」が強意になる例

19 (訳) きつと波を立ててしまうだろう

(説) 強意の助動詞「つ」の終止形
「べし」とセットで「つ」が強意になる例

20 (訳) きつと罪障に例えることができるだろう

(説) 強意の助動詞「つ」の終止形
「べし」とセットで「つ」が強意になる例

21 (訳) きつと捨て去ることができだろう

(説) 強意の助動詞「つ」の終止形
「べし」とセットで「つ」が強意になる例

22 (訳) きつと寝静まつているだろう

(説) 強意の助動詞「ぬ」の終止形
現在推量の助動詞「らむ」とセットで「ぬ」が強意になる例

22 (訳) きつと良くなっているだろう

	24	(訳) きつと過ぎているだろう (説) 強意の助動詞「ぬ」の終止形 「らむ」とセットで「ぬ」が強意になる例
	25	(訳) きつと思っっているだろう (説) 強意の助動詞「つ」の終止形 「らむ」とセットで「つ」が強意になる例
	26	(訳) きつと聞いているだろう (説) 強意の助動詞「つ」の終止形 「らむ」とセットで「つ」が強意になる例
	27	(訳) きつと見えたのだろう (説) 強意の助動詞「つ」の終止形 「らむ」とセットで「つ」が強意になる例
	28	(訳) きつと甚だしかっただろうに (説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形 反実仮想の助動詞「まし」とセットで「ぬ」 が強意になる例
	29	(訳) きつと雪のように降ってしまっただ ろうに (説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形 「まし」とセットで「ぬ」が強意になる例
	30	(訳) きつと再び帰って来るだろうに (説) 強意の助動詞「ぬ」の未然形 「まし」とセットで「ぬ」が強意になる例
	31	(訳) きつと必ず捕まえただろうに (説) 強意の助動詞「つ」の未然形 「まし」とセットで「つ」が強意になる例
	32	(訳) きつと返事をしただろうに (説) 強意の助動詞「つ」の未然形 「まし」とセットで「つ」が強意になる例
	33	(訳) きつと取って差し上げただろうに (説) 強意の助動詞「つ」の未然形 「まし」とセットで「つ」が強意になる例

【練習2】

1 ぬ
2 つ
3 ぬ
4 つ
5 つ
6 ぬ
7 つ

34	(訳) 組んだり組まれたり、討ったり討た れたり (説) 並列の助動詞「つ」の終止形
35	(訳) 乗っては降りたり、降りては乗った り (説) 並列の助動詞「つ」の終止形
36	(訳) 追いかけたり引き返したり (説) 並列の助動詞「つ」の終止形
37	(訳) 浮いたり沈んだり (説) 並列の助動詞「ぬ」の終止形
38	(訳) 泣いたり笑ったり (説) 並列の助動詞「ぬ」の終止形